



TITLE:

# 前立腺肥大症術後1年半で診断された前立腺癌の1例

AUTHOR(S):

加藤, 雄一; 中田, 誠司; 佐藤, 仁; 黛, 卓爾; 清水, 俊寛

---

CITATION:

加藤, 雄一 ...[et al]. 前立腺肥大症術後1年半で診断された前立腺癌の1例  
. 泌尿器科紀要 1996, 42(11): 907-909

ISSUE DATE:

1996-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115842>

RIGHT:

## 前立腺肥大症術後1年半で診断された前立腺癌の1例

群馬県立がんセンター泌尿器科 (部長: 佐藤 仁)

加藤 雄一, 中田 誠司, 佐藤 仁

黛泌尿器科内科医院 (院長: 黛 卓爾)

黛 卓 爾

いいづかクリニック (院長: 清水俊寛)

清 水 俊 寛

## A CASE OF PROSTATE CANCER DIAGNOSED ONE AND HALF YEAR AFTER RETROPUBIC PROSTATECTOMY FOR BENIGN PROSTATIC HYPERTROPHY

Yuichi KATO, Seiji NAKATA and Jin SATO

From the Department of Urology, Gunma Cancer Center

Takuji MAYUZUMI

From the Mayuzumi Clinic

Toshihiro SHIMIZU

From the Iizuka Clinic

A 77-year-old male patient underwent retropubic prostatectomy for benign prostatic hypertrophy. Fourteen months after operation, a hard nodule was palpated on the left lobe on digital examination. Transrectal needle biopsy was performed, and the pathological diagnosis was poorly differentiated adenocarcinoma of the prostate. It was one and half year after prostatectomy that we diagnosed prostate cancer (stage D2).

Acta Urol. Jpn. 42: 907-909, 1996

**Key words:** Post-prostatectomy, Prostatic cancer

## 結 言

前立腺肥大症術後, 残存した前立腺に癌が発生することがあるが, 2年以内に診断されることは, 比較的稀である。今回われわれは, 前立腺肥大症の診断で被膜下摘除術後, 1年半で前立腺癌と診断された症例を経験したので報告する。

## 症 例

患者: 77歳, 男性

主訴: PSA の上昇, 前立腺左葉の硬結

家族歴・既往歴: 特記事項なし

現病歴: 1993年1月, 血尿を主訴に近医を受診。前立腺肥大症を指摘され, 6月当院泌尿器科受診。PSA (EIA) は0.8以下であったが, 経直腸エコーにて低エコー域を認めたため, 前立腺針生検を施行。病理組織で悪性所見を認めなかったため, 前立腺肥大症の診断にて, 同年7月, 前立腺被膜下摘除術を施行。病理組織で悪性所見を認めなかった。1994年9月の外来受診時, 直腸診にて左葉に硬結を触知し, マーカーの軽度上昇, エコーにて左葉の peripheral zone に低エコー

域を認めたため, 前立腺癌疑いにて入院となった。

入院時検査成績: BUN; 24.7 mg/dl (8~20), ALP; 294 IU/L (100~280) の軽度上昇以外に異常を認めなかった。腫瘍マーカーは, PSA (TR-FIA); 5.7 (ng/ml) であった。

入院後経過: 1994年11月25日, 経直腸的に前立腺針生検を施行。病理組織で, 6カ所中4カ所に低分化腺

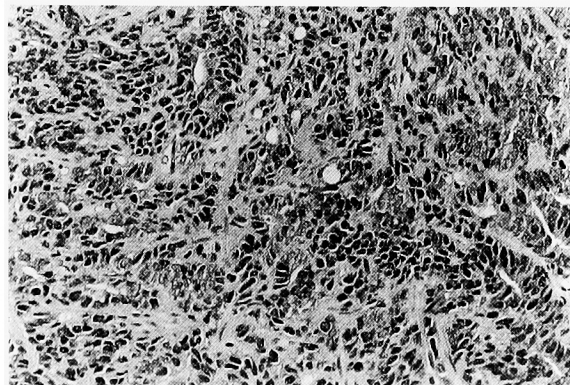


Fig. 1. Histological examination of needle biopsy showed poorly differentiated adenocarcinoma of the prostate.

癌を認めた (Fig. 1). 骨盤 MRI で精嚢への浸潤が認められ、骨シンチグラムでは腰椎への異常集積像が認められたため、前立腺癌、T3N0M1, stage D2 と診断した (前立腺被膜下摘除術後 1 年 5 カ月). 12 月 15 日より CMA と LH-RH agonist によるホルモン療法を開始し、PSA は順調に低下し、現在外来にて治療を継続中である (Fig. 2).

## 考 察

前立腺肥大症術後、数年経過して前立腺癌と診断される症例は、稀ではないと思われるが、本邦での報告例は少ない. Schwartz ら<sup>1)</sup>は、前立腺肥大症術後の患者のうち 1.7% に前立腺癌が発生し、また前立腺癌と診断された患者の 6.0% が前立腺肥大症の手術の既往があると報告している. 群馬県立がんセンター泌尿

器科の 5 年間 (1991~1995) での前立腺癌 82 例の中で、前立腺肥大症の手術既往を有するのは、本症例を含め 4 例 (4.9%) であった.

本邦における前立腺肥大症術後の前立腺癌の報告例は、われわれの調べたかぎりでは 21 例であった<sup>2-8)</sup> 前立腺肥大症手術から前立腺癌診断までの期間に関して、Schwartz らが 4 年以内と 7 から 28 年の二極化が見られたと報告している<sup>1)</sup> 本邦報告例 21 例に関しても、2 年以内が 9 例、7 年以降が 9 例と二極化が認められた. 2 年以内の報告例は本例を含めて 9 例であった<sup>4-8)</sup> (Table 1). 病理学的分化度は、低分化が 7 例 (78%), 中分化が 2 例 (22%) で低分化が約 8 割を占めていた. 病期分類では A, B はなく、C が 2 例 (22%), D が 7 例 (78%) であり、低分化、進行癌が多かった.

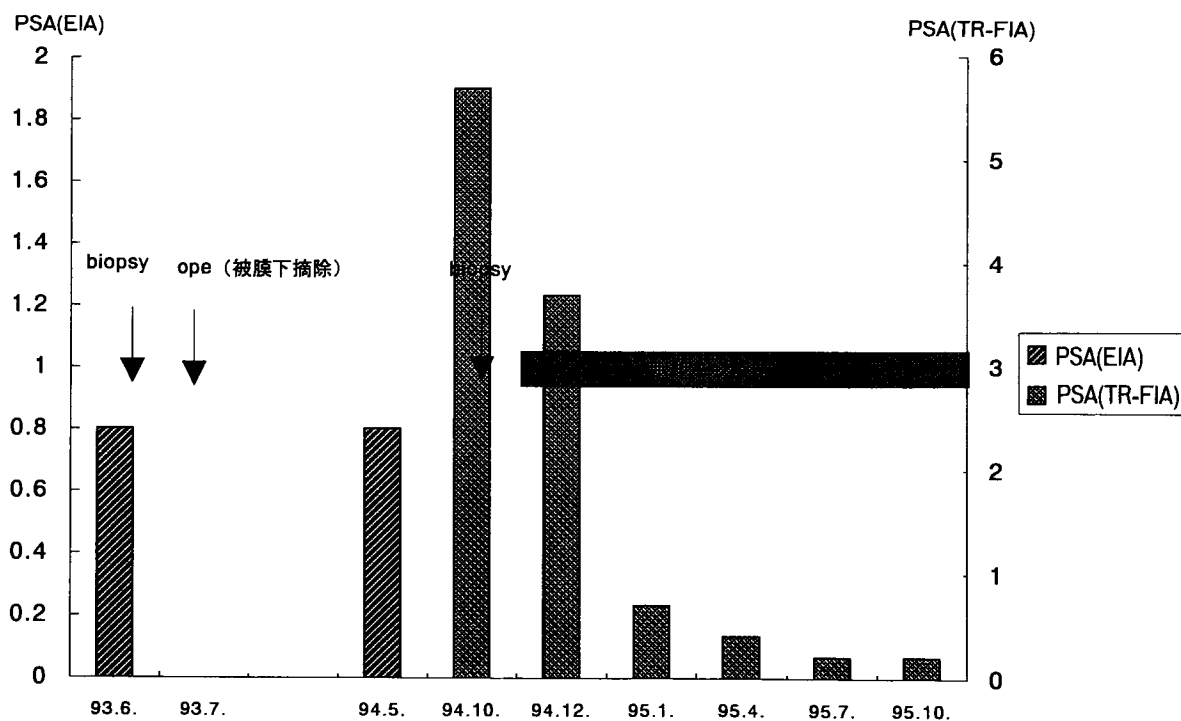


Fig. 2. Clinical course.

Table 1. Cases of prostatic cancer diagnosed within two years after prostatectomy for benign disease

症例	報告者	年齢	前立腺肥大症手術	癌診断までの期間	分化度	Stage
1	白井ら <sup>4)</sup>	74	被膜下摘出	1年6カ月	低	C
2	河村ら <sup>5)</sup>	72	被膜下摘出	2年	中	D2
3	河村ら	69	被膜下摘出	1年	低	D2
4	河村ら	75	被膜下摘出	2年	低	D2
5	福岡ら <sup>6)</sup>	72	TUR-P	1年7カ月	低	D1
6	桑田ら <sup>7)</sup>	73	TUR-P	1年4カ月	低	D2
7	高井ら <sup>8)</sup>	75	TUR-P	2年	中	C
8	高井ら	71	被膜下摘出	2年	低	D2
9	自験例	77	TUR-P 被膜下摘出	1年6カ月	低	D2

前立腺肥大症術後, 前立腺癌が発症する原因として, 1) 手術後, 残存する前立腺から新たに発生した, 2) 肥大症手術時に存在していたが見落とされた, 3) 存在していた微小癌が顕在化した, などが考えられている<sup>2,5)</sup> 肥大症術後といえども, 前立腺癌の発生は否定される訳ではない。2年以内の発生例では, 手術操作による刺激を受け微小癌の進展が促進されたり, 手術によって開放された血管やリンパ管により, 転移が促進された, などの可能性が考えられている<sup>8)</sup>。本症例もこのためであろうと思われる。

前立腺肥大症術後に, 直腸診で硬結を触れることはよくあるが, 安易に手術によって生じた硬結と考えずに, 癌も念頭において検査をすすめる必要があると思われる。

### 結 語

前立腺肥大症術後, 1年半で診断された前立腺癌の1例を, 若干の文献的考察を加えて報告した。

### 文 献

- 1) Schwartz I, Wein AJ, Malloy TR, et al.: Prostate cancer after prostatectomy for benign disease. *Cancer* **58**: 994-996, 1986
- 2) 横田欣也, 平石攻治, 米沢正隆, ほか: 前立腺肥大症術後に生じた前立腺癌の1例. *西日泌尿* **50**: 1611-1613, 1988
- 3) 石津和彦, 小西基彦, 城甲啓治, ほか: 前立腺肥大症切除10年後にみとめられた前立腺癌の1例. *泌尿器外科* **4**: 731-732, 1991
- 4) 白井千博, 池田彰良: 良性前立腺肥大症術後に認められた前立腺癌の1例. *神奈川医会誌* **16**: 188-192, 1989
- 5) 河村秀樹, 平川真治, 根本良介, ほか: 被膜下前立腺摘除術後に顕在化した前立腺癌の臨床病理学的検討. *日泌尿会誌* **83**: 1823-1827, 1992
- 6) 福岡 洋, 武田光正, 野村 栄, ほか: 前立腺肥大症に対する TUR-P 術後数年経過して発見された前立腺癌. *泌尿紀要* **38**: 903-906, 1992
- 7) 桑田善弘, 松岡則良, 藤田 潔, ほか: 前立腺肥大症術後に発生した前立腺癌の1例. *西日泌尿* **56**: 82-84, 1994
- 8) 高井計弘, 深澤 立, 小山康弘, ほか: 前立腺肥大症の術後2年以内に発症した前立腺癌. *臨泌* **49**: 865-868, 1995

(Received on May 27, 1996)  
(Accepted on July 30, 1996)